

# 百人一首 上の句と下の句を線で結びましょう ④

奥山に  
紅葉踏み分け  
鳴く鹿の

朝ぼらけ  
有明の月と  
見るまでに

鵲の  
渡せる橋に  
置く霜の

滝の音は  
絶えて久しく  
なりぬれど

あらがらむ  
この世のほかの  
思ひ出に

長からむ  
心も知らず  
黒髪の

吉野の里に  
降れる白雪

名こそ流れて  
なほ聞こえけれ

声聞く時ぞ  
秋は悲しき

乱れて今朝は  
物をこそ思へ

白きを見れば  
夜ぞ更けにける

いまひとたびの  
逢うこともがな